

提 言

まじめで不器用な男の子

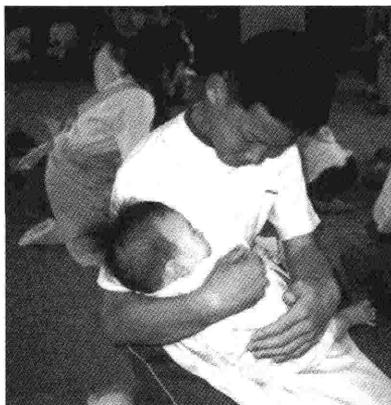
田中義人 (日本小児保健協会副会長,
広島大学大学院保健学研究科長)

今年の9月に札幌で開催された第55回日本小児保健学会(堤裕幸会長)で、写真家、エッセイストでもある獣医の竹田津実氏が「野生の友からの伝言」と題した講演をされました。多くの会員の方がお聞きになっていましたが、その中で、氏が述べられた「哺乳類の世界では、オスは存在するが、父親は存在しない。例外はキツネとタヌキとヒトだけである」というお話が特に印象に残りました。父親キツネがどのように子ギツネを育て、その家族それぞれの、一般化できない独特な「家風」を築いていくか。本当に面白い講演でした。

ヒトの社会では、かなり前から、父親の育児参加、男女共同参画推進、Work-Life Balanceの見直しなどが大きなテーマとなり、家族のイメージも変化してきています。そういえば、2000年を迎える少し前に、当時の厚生省のポスターで、「育児をしない男を、父とは呼ばない」というのもありました(賛否両論ありましたが)。また、「育児(いくじ)なし」というのもありました。もう10年ちかく前のことです。

下の写真は、広島県で清水凡生先生(広島小児保健学会会長)を中心に、私どもが推進してきた「中学生の赤ちゃん体験学習」のひとつコマです。男の子の腕に注目してください。赤ちゃんを恐るおそるグッコして、赤ちゃんをつぶさないように、腕にグッと力をいれて、太腿もガチガチに固まっている男の子です。この男の子は、いままで赤ちゃんにさわったことがなく、最初はこの体験学習を嫌がっていましたが、終了時刻になっても赤ちゃんを離そうとせず、「まだやりたい」と、目の色が変わっていました。男の子はこの体験学習を経験すると女の子以上に変化します。現代の子どもたち、特に男の子は「赤ちゃん」に限らず、「お年寄り」や、いろいろな人と接したり、日常で色々な体験をする場がなくなっているのだと思います。

男の子は、まじめで不器用な男の子のまま、大人になり、父親になっていきます。強がってはいませんが、本当は、どうすればいいのか、よく分かりません。家庭の(社会の?)主導権は女の子にあります。「かかあ天下」でよろしくお願いします。男の子は頭をかきながら、ブツクサ言いながら、従います。



腕に注目!

写真提供 田中義人